理研会報

発行
印旛研理科研究部
事務局
成田市幸町948の1
成田小学校内

子どもたちに植物環境を

間野台小　大久保康雄

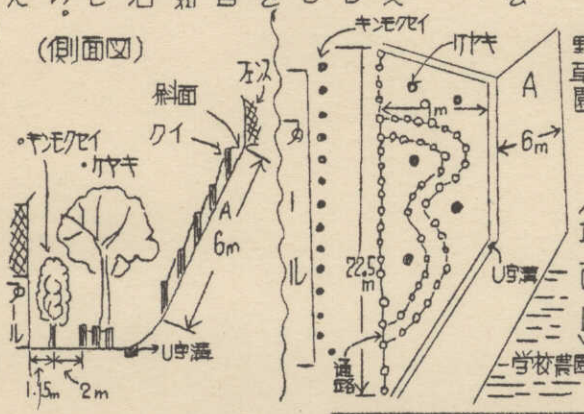
本校は、昭和五十六年度開校の新設四年目の学校である。現在、京成臼井駅からあるいて数分の、周辺は住宅地（まだ、かなり造成地として残っている）になっているが、以前は山林や水田だった所である。

五十六年の春、校庭はまだ、工事中の学校を訪れた私に、一番の印象として残っていることは、緑が一つもなく、雑草さえも一本も生えていない、ただ真新しい校舎が赤土の土地に建っているということだった。あと、どのくらいしたら草が生えてくるのだろうかと内心、心配したものである。

それから数ケ月し、この心配は解消されたのである。芝生は根付き、樹木も植えられ、雑草もちゃんと生えてきたのである。植えたのでもないのに、思っていたより早く姿を現してくれた雑草に多少の感動を覚えた。そこで、学校内に見られる草木の写真を撮り、理科室前に掲示をした。少しでも、子どもたちに関心をもってもらいたかったのである。勿、掲示してあるそれを見ると、古くなり、手あたりしだいに撮ったものへさほど数は多くないが）で、もう、はがしてしまおうかとも思っているが、何もない赤土の土地から生えてきた本校初の植物だと考えると思いとどまらせるのである。現在は、こうした開校当時の学校がうそのようである。子どもたちに「まだ、草取り!!」と思われるほどになった。

本校の子どもたちの家庭は、昼社員がほとんどで、農家はなく、東京等の都会からの転入が多い。こうした状況下で、学校環境の美化として、雑草をきれいに取ってしまうのは、とても残念に思えてしかたがなかった。学区の一部を除けば、家の周りには、十分な自然があるとはいえない。理科を始め、国語などの教科でも植物の名は出てくる。こんな時、絵だけで終わってしまったのではさびしい。そこで、子どもたちに自然に生えている植物に少しでも多く、触れさせようと　野草園を作ることにした。しかし、学校内を見回した所、なかなかよい場所がない。よく見て行くと、学校の敷地との境が斜面になり、その下にプールがあるが、間があいており、けやきが五本植えられている場所があった。斜面もスロープ、多少の変化もあるので、ここならいいだろうと、校長の許可も得、理科研究部の先生方と子どもたちとで作業にとりかかった。

一メートル間隔に、焼いたクイを打ち、間をロープで結び通路をつくった。また、植物名の札をつけた。今年度、アケビ等　近くに見られる植物を移植したりと考えている。野草園として維持して行くためには、日頃の管理も大事になってくる。毎日、清掃時に四名の子どもたちを当たらせている。



今年、雪もつもり、緑から遠ざかっていた野草園に春を告げたのは、つキノトウであった。今ではワタゲのタンポポ、黄色のジシバリの花、カラスノエンドウ、ハルジョオン、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、ノアザミ、タケニグサ……など。これからも、多くの野草が見られるだろう。

野草園と並行して「間野台小に見られる野草」と題して、四季に分け、写真を掲示し、簡単な説明を加えた。できるだけ身近な植物を子どもたちの前に示すことで関心を持たせたい。図鑑で知るだけでなく、本物を見ることでより多くの発見ができる子にするために。

理科室の整理について

安食小　武井正己

理科室には、大小さまざまな用具があります。私は、新設校で理科備品なども数少ない学校に新採として入り、そのあと長い伝統のある安食小学校に転勤してきました。

そこで、理科主任ということになり、理科室に入っておどろきました。どちらかというと狭い理科準備室に、用具・備品がぎっしりと置かれていたからです。その中には、初めて目にする物も数多くありました。とにかく一番最初の仕事は、自分自身で理科室に何があるのかを確認するということでした。

理科室の整理について、これといって、特別の工夫をしているのではないのですが、現在の理科室を見まわして、気づく点を書き並べてみたいと思います。

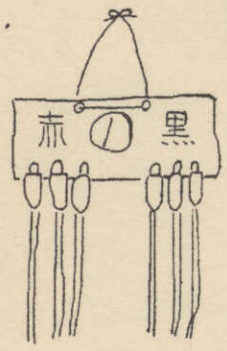
まず、整理にとりかかる時に、注意したことは、

- 使用不能な物などをできるだけ処分する。
- 天体望遠鏡など、組み立てたり、備えつけておいた方が良い物は、場所を決めて、取りつけておく。
- 重い物・大きな物は、できるだけ低い所におく。
- 力・運動・光など、それぞれの領域別にまとめておく。
- 置き場所がわかりやすいように戸だなに番号をつけたうえで、一覧表をつくりはっておく。

などのことでした。具体的な作業にかかると、スペースなどの都合で、なかなか思い通りにはできない点が数多くでてきました。

以上のようなかたづけの他に、1、机やいすに番号をつけておき、備品・用具などで机ごとに配れるものは、それぞれの備品・用具にも番号をつけてあります。（例えば、天びん・顕微鏡・試験管立てなど）

番号は、①②③……多くなると①'②'③'……などとしています。そして、机の番号とあわせて用具を使ってもらいます。電気のコードなども左のように、厚紙で台をつくり、まとめてあります。



2、こまごまとしたものは、スポイト、かきまぜ棒、さじ等は、あきびんに立てて入れておき、ソケット、豆電球などは、あき缶やあき箱にしまってあります。ふっとう石のような物はプリンカップに、その他　小さな仕切りのある紅茶のティーバックが入っているような缶も　大変便利な入れ物になります。

この他に、理科室には、手作り教材に利用するための、竹の棒や塩ビパイプ、フィルムケースなどが数多くあります。これらは、ダンボール箱に入れて、その上にのせておきます。なるべく大きな、内容のよくわかる名札をつけておきます。

どこの学校でも、おやりになっているようなことで、参考になる点があったかどうかわかりませんが、安食小学校の理科室の様子や整理について書いてみました。

理科室は、多くの先生方がいつも利用する場所です。それだけにわかりやすく、利用しやすい工夫が必要だと思います。そしてその中には、あとかたづけがしやすいことも含まれるのでしょう。

他の学校の理科室の整理の工夫など、教えていただければ幸いに思います。